

令和6年12月定例会議 一般質問

4番議員 井上 慎司

教育長の学校教育における考えを問う

これまでの学校教育は、昭和の高度経済成長期から続く、いわゆるカリキュラム的な学習を重視した知識詰め込み型の教育と言われた時代もあり、また、平成に入り、学校週五日制導入の頃には「ゆとり」の中で「生きる力」を育てていく必要性が掲げられた時代もあった。

このように学校教育は、時代背景や社会のニーズを反映しながら、常に、次代を担う子どもたちに必要な力とは何かを見据えて、教育現場においてたゆまぬ実践を重ねてきたと認識している。

また、一人ひとりの子どもたちが自ら人生を切り開いていくための、豊かな人間性を培うことも必要であると考えている。

近年は、この変化の激しい社会を生きていくために、物事について筋道を立てて論理的に考える力や、他者に対して根拠とともに論理的に説明する力など、いわゆる思考力、表現力の育成が必要とされており、現行の学習指導要領にも明確に示されている。

多岐にわたる教育行政のなかでも、今回は、制服の変更、学校プールとプラネタリウムの今後、校則や宿題についてなど、文命中学校に関することを中心に、新体制の教育委員会における本町の独自性を持った学校教育のビジョンがあるのか教育長の考えを問う。